

「公共建築の日」フェスティバル2017 in モエレ

- ◆開催日：平成29年10月21日（土）
- ◆開催場所：モエレ沼公園 ガラスのピラミッド
- ◆来場者数：851名

主催：「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会、北海道開発局

後援：北海道、札幌市、江別市、石狩市、（国大）北海道大学、（一財）北海道開発協会、（一社）北海道建築士会、
（一社）北海道建築士事務所協会札幌支部、（公社）日本建築家協会北海道支部、（一社）札幌建設業協会、

（一社）北海道空調衛生工事業協会、（一社）北海道電業協会、（一社）北海道技能士会、（一社）北海道建具工業協同組合連合会

「全体をひとつの彫刻作品とする」というコンセプトのもとイサム・ノグチ氏がデザインしたモエレ沼公園、そのシンボリック的存在である「ガラスのピラミッド」は、豊かな時間を過ごせる空間の文化施設としての顔をもっており、札幌の公共建築として象徴的であると考え、開催地に選んでいます。

フェスティバルは平成17年から始まり、今年で13回目となりましたが、親子でものづくりを通して、「建築」に興味をもていただく機会として企画しています。



写真：イベント会場 ガラスのピラミッド

■建築を楽しもう ～各プログラムの紹介～

●ダンボールシティをつくろう！

大きなダンボールを使って、参加者が建物を作り、完成した作品を並べ、街並みを形成するプログラムです。事前申込みが必要で小学生以下の子供を含む家族など先着16組としています。年々人気上がり、近年は締め切り前の早い時期に定員に達しています。

イベント当日は、用意したダンボールと色紙などの仕上げ材料を工夫して、子供たちがダンボール建築に取り組みました。

時間を追う毎に、たくさんの色とりどりの個性的な建物が建ち上がって行く様は見応えがあります。



写真：ダンボールシティ製作状況



建物完成後には、それぞれのご家族が製作した建物との記念写真入りの「ダンボール建築家認定証」をお渡ししており、今年でダンボール建築家は通算200組を超えることとなりました。

写真：（左）ダンボールシティ完成作品
（右）認定証授与状況

●ものづくり体験

ものづくり体験は、後援団体のご協力をいただき運営しています。工具を使って木製の小さなイスやテーブルを作る体験、電線を利用してのワイヤークラフト、ペットボトルを利用した水流実験など、様々なプログラムを用意しました。

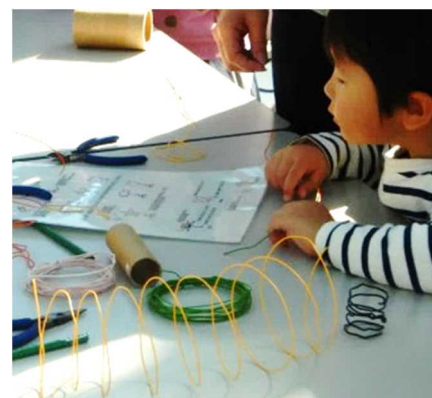
それぞれ順番待ちの列ができ、定刻前に予定数量に達したブースが生じるほど好評でしたが、小さな手で工具をふるい一生懸命にもものづくりに取り組み、完成した時の充実した子供たちの表情が印象的でした。



写真：小さなイス



写真：水流実験



写真：電線クラフト

●ワークショップ

専門家をお迎えして「積み木のまちづくり」を行いました。子供たちが協力して、積み木で大きな作品をつくりあげるものです。今年は、「おおきなマチ」、「おおきなドーム」の2作品に挑戦しました。小さな積み木を自分たちの背より高く積みあげて、すばらしい作品を完成させました。



写真：積み木のまちづくり

●新たなプログラム

今年は遊び感覚で公共建築を学べるプログラムが登場しました。

一つは公共建築についてのクイズ 5 問に挑戦する「公共建築ナゾときクイズ」です。ヒントが書かれた公共建築紹介パネルを探し出してクイズに答えます。子供たちがピラミッドのヒントMAPを見て建物を端から端まで歩き回り、パネルを見て、友達同士で回答を導き出していました。

もう一つは、16枚のぬりえを組み合わせるとA0サイズの大きな街の絵が完成する「ぬりえでまちづくり」です。札幌市・石狩市・江別市に建つ公共建築を題材にした「ぬりえ」には、その建物の役割も書かれており、お子様が作品に挑戦している間に親御さんも、読んでいただけるようになっています。



写真：クイズに挑戦中



写真：ぬりえに挑戦中



写真：ぬりえで出来た大きなマチ

本イベントには、毎年参加して下さる方々もおられ、たくさんの来場者を迎える恒例イベントに育ってきたと思います。北海道開発局では、本イベントの他にも関係機関等と連携を図りながら様々なイベントを開催しており、参加いただいた皆様には、これらのイベントを通して公共建築に対する関心を持っていただければと考えています。